

書名	倭の国から日本へ 3			著者名	阿上万寿子／著		
出版社	文芸社	ISBN	978-4-286-19138-6	本体価格	¥1,100	発売	9月上旬
内容	紀元前26年～紀元前7年。美少年葦原醜男は、大国主と名を変え、葦原中国を束ねる出雲の王になった。高天原では、神威の凋落が続いている。百濟建国、ホヒ等の派遣。強まる国譲りの要請に、大物主の神は……。『古事記』や『日本書紀』は、何を伝えようとしているのか。記紀の世界を暦年で綴る物語。古代史の謎にせまる小説『倭の国から日本へ』第3巻。						

書名	卑弥呼の墓 あいうえおの考古学 2			著者名	豊永武盛／著		
出版社	文芸社	ISBN	978-4-286-19734-0	本体価格	¥1,500	発売	9月上旬
内容	「邪馬台国はどこか？」の論争は歴史の一大ロマンであり、長年研究されているが、その場所は今なお特定できていない。九州大学で精神分析を学んだ著者独自の「身体論」により、『魏志倭人伝』を読んでいく。「そのときどきの卑弥呼」を登場させ、再現ドラマのスタイルを試みる、ユニークな古代エッセイ。卑弥呼とは、どのような女性で、どこに眠るのか？						

書名	女王〈巫〉と大王と妃 卑弥呼と継承者たち			著者名	大久保久能／著		
出版社	風詠社	ISBN	978-4-434-25055-2	本体価格	¥2,000	発売	2018/9/1
内容	古墳が語る歴史の流れと古代からのメッセージ。他の古墳との関係性や造営時期、埋葬者まで、全ての謎は古墳の向きが示していた。「奈良」「大和」「河内和泉」の古墳群を上空から眺め、見えてきたものとは何か。						

書名	日本の神社と神様			著者名			
出版社	宝島社	ISBN	978-4-8002-8794-6	本体価格	¥890	発売	2018/9/4
内容	古事記や日本書紀など日本の神話が描く神々、神様となった人々、日本の代表的企業が祀る神様から安産・長寿・出世・台所など暮らしを守る神様、日本三大怨霊にみる祟り神まで。豊富なビジュアルとわかりやすい解説で、日本の八百万の神々の歴史と起源がわかる一冊です。神が降り立ったとされる宮崎県高千穂の現地取材など、日本の神々の姿を「目に見える」形で紹介します。						

書名	カラー版 神々が宿る絶景100			著者名	三浦 佑之／監修		
出版社	宝島社	ISBN	978-4-8002-8815-8	本体価格	¥1,100	発売	2018/9/11
内容	上立神岩、天安河原、真名井の滝、熊野大社拝殿、大神神社参道など、自然の名景から歴史ある荘厳な神社まで、神話・古代史にまつわる日本の「パワースポット×絶景」を100箇所紹介。各伝承地を訪ね歩きながら、神話の面白さやそれが示唆する歴史や謎を綴ります。ハンディなカラー新書のため散策や旅行の携行にもピッタリ。写真を見て楽しむ、読んでも楽しむ、実際に訪れる際の情報として実用性もある一冊です。						

書名	大和維新			著者名	植松 三十里／著		
出版社	新潮社	ISBN	978-4-10-352081-8	本体価格	¥1,600	発売	2018/9/21
内容	廃藩置県で大阪府へ併合、冷遇された奈良県。大和の誇りを抱く男は故郷の再独立と近代化に立ち上がる。知られざる闘いを描く維新秘史。						

書名	奈良 風のまにまに			著者名	多川 俊映／著		
出版社	春秋社	ISBN	978-4-393-13646-1	本体価格	¥2,200	発売	2018/9/26
内容	千三百年の歴史をほこる奈良・興福寺にまつわる逸話や美術品、現代の社会問題について、豊かな心のあり方とは何かを基調に、興福寺貫首が軽妙な語り口で説き明かす。						

書名	19' 奈良大和路 入江泰吉カレンダー			著者名	入江 泰吉／写真		
出版社	光村推古書院	ISBN	978-4-8381-9837-5	本体価格	¥1,389	発売	9月下旬
内容	入江泰吉の奈良の風景写真カレンダー。						